

小規模企業の景況

(2022年7～9月期)

大阪商工会議所による小規模企業の景況調査(四半期毎)2022年7～9月期の結果概要は以下の通り。今期(2022年7～9月期、調査基準日:9月1日)の業況判断DIは▲25.7と2期ぶりに低下し、前回調査から6.1ポイントの悪化となった。売上額DI値は▲14.7(前回調査から3.7ポイント悪化)、資金繰りDI値は▲23.3(前回調査から6.8ポイント悪化)、従業員過不足DI値は▲12.0(前回調査からプラス1.4)となった。「経営上の問題点」では、製造業で「原材料価格の上昇」が4期連続、卸売業で「仕入価格の上昇」が2期連続してそれぞれ第1位となり、小売業においても「仕入単価の上昇」が第1位に浮上した。サービス業では5期連続で「需要の停滞」が第1位となった。

1. 今期(2022年7～9月期)の状況

【売上額】今期(2022年7～9月期)の売上額DI(全産業)は、前回調査(2022年4～6月期の▲11.0)から3.7ポイント悪化し、▲14.7となった。業種別では前回調査から、卸売業が7.8ポイント改善したが、製造業が2.4ポイント、小売業が2.7ポイント、サービス業が14.7ポイントそれぞれ悪化した。

【資金繰り】今期の資金繰りDI(全産業)は、前回調査(▲16.5)から6.8ポイント悪化し、▲23.3となった。業種別では前回調査から、サービス業の11.0ポイント悪化をはじめ、製造業4.9ポイント、卸売業5.1ポイント、小売業5.4ポイントそれぞれ悪化した。

【業況判断】今期の業況判断DI(全産業)は、前回調査(▲19.6)から6.1ポイント悪化し、▲25.7となった。業種別では前回調査から、製造業が6.1ポイント、卸売業が2.0ポイント、小売業が6.8ポイント、サービス業が8.6ポイントそれぞれ悪化した。

【従業員数過不足】今期の従業員数過不足DI(全産業)は、前回調査(▲13.4)から1.4ポイント改善し、▲12.0となった。業種別では前回調査から、製造業が1.1ポイント、卸売業が0.2ポイント悪化した。小売業は4.5ポイント、サービス業は2.4ポイント改善した。

2. 来期(2022年10～12月期)の予想

来期(2022年10～12月期)の全産業の予想DIは、売上額▲17.8、資金繰り▲19.9、業況判断▲24.7となった。

3. 経営上の問題点

製造業で「原材料価格の上昇」、卸売業と小売業で「仕入単価の上昇」、サービス業で「需要の停滞」が第1位となった。

※DI値とは……ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、本調査では前年同期(2021年4～6月期)と比較して売上額、業況判断、資金繰りなどが「増加」「好転」したなどとする企業割合から、「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

【調査の概要】

- ・調査名：第169回中小企業景況調査（中小企業庁・中小企業基盤整備機構）
- ・調査時期：2022年8月22日～9月1日（前回：2022年5月23日～6月1日）
- ・調査方法：経営指導員による、調査票に基づく聴取り調査
- ・調査対象：大阪市内の中小企業・小規模事業者
 - ※ 全国7,905件中、大阪商工会議所分324件。
 - ※ 本紙では、大阪商工会議所分のうちとくに小規模事業者（従業員：製造業20人以下、商業・サービス業5人以下）292件について取りまとめた。
〔製造業78件、卸売業62件、小売業70件、サービス業82件〕

■DI推移（全産業）

	166回調査	167回調査	168回調査 (前回)		169回調査 (今回)	
	2021年(R3) 10～12月期	2022年(R4) 1～3月期	2022年(R4) 4～6月期	2022年(R4) 7～9月期	2022年(R4) 7～9月期	2022年(R4) 10～12月期
売上額（増-減）	-21.0	-34.3	-11.0	-10.7	-14.7	-17.8
資金繰り（好-悪）	-16.4	-24.6	-16.5	-11.3	-23.3	-19.9
業況（好-悪）	-25.2	-34.9	-19.6	-15.8	-25.7	-24.7
従業員（過-不）	-12.6	-11.8	-13.4	—	-12.0	—

■経営上の問題点

順位	製造業	件数	卸売業	件数	小売業	件数	サービス業	件数
1位	原材料価格の上昇 →	31 (36)	仕入単価の上昇 →	29 (26)	仕入単価の上昇 ↑	13 (11)	需要の停滞 →	16 (13)
2位	需要の停滞 →	15 (14)	需要の停滞 →	11 (17)	消費者ニーズの変化への対応 ↓	11 (12)	利用者ニーズの変化への対応 ↑	10 (9)
3位	製品(加工)単価の低下・上昇難 ↑	6 (5)	販売単価の低下・上昇難 →	4 (3)	需要の停滞 ↑	10 (5)	材料等仕入単価の上昇 ↓	9 (12)
	生産設備の不足・老朽化 ↑	6 (3)					その他(コロナによる景況の悪化等) ↑	9 (8)

[注] () 内は前回（2022年4～6月期）調査結果

↑ = 前回より高順位

→ = 前回と同順位

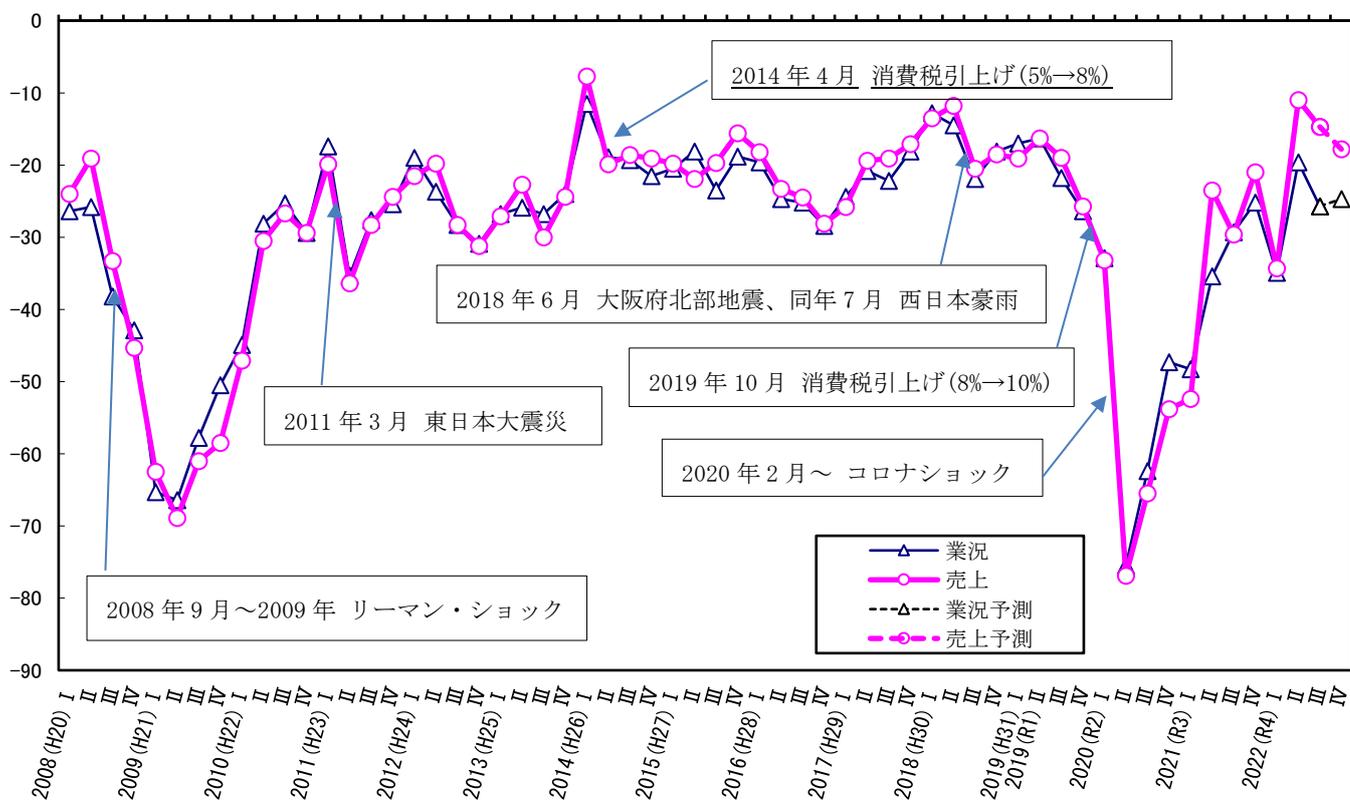
↓ = 前回より低順位

■ 状況比較表（業種別）

項目	業種	今期の状況（7～9月期）				前回（4～6月期）からの推移	来期の予想（10～12月期）			
		増加	不変	減少	増－減		増加	不変	減少	増－減
売上額										
	製造業	23.1	41.0	35.9	▲ 12.8	▲ 2.4	16.7	44.9	38.5	▲ 21.8
	卸売業	32.3	29.0	38.7	▲ 6.5	7.8	17.7	40.3	40.3	▲ 22.6
	小売業	25.7	32.9	41.4	▲ 15.7	▲ 2.7	25.7	38.6	35.7	▲ 10.0
	サービス業	23.2	31.7	45.1	▲ 22.0	▲ 14.7	20.7	41.5	37.8	▲ 17.1
	合計	25.7	33.9	40.4	▲ 14.7	▲ 3.7	20.2	41.4	38.0	▲ 17.8
	前回	29.2	30.6	40.2	▲ 11.0		25.1	39.2	35.7	▲ 10.7
資金繰り		好転	不変	悪化	好－悪		好転	不変	悪化	好－悪
	製造業	1.3	76.9	20.5	▲ 19.2	▲ 4.9	1.3	76.9	19.2	▲ 17.9
	卸売業	4.8	69.4	24.2	▲ 19.4	▲ 5.1	1.6	69.4	25.8	▲ 24.2
	小売業	4.3	61.4	32.9	▲ 28.6	▲ 5.4	5.7	58.6	34.3	▲ 28.6
	サービス業	4.9	63.4	30.5	▲ 25.6	▲ 11.0	12.2	63.4	23.2	▲ 11.0
	合計	3.8	67.8	27.1	▲ 23.3	▲ 6.8	5.5	67.1	25.3	▲ 19.9
	前回	5.5	71.8	22.0	▲ 16.5		8.6	70.4	19.9	▲ 11.3
業況		好転	不変	悪化	好－悪		好転	不変	悪化	好－悪
	製造業	11.5	47.4	41.0	▲ 29.5	▲ 6.1	7.7	55.1	30.8	▲ 23.1
	卸売業	19.4	38.7	41.9	▲ 22.6	▲ 2.0	8.1	45.2	38.7	▲ 30.6
	小売業	12.9	47.1	40.0	▲ 27.1	▲ 6.8	11.4	47.1	38.6	▲ 27.1
	サービス業	14.6	46.3	37.8	▲ 23.2	▲ 8.6	14.6	50.0	34.1	▲ 19.5
	合計	14.4	45.2	40.1	▲ 25.7	▲ 6.1	10.6	49.7	35.3	▲ 24.7
	前回	16.8	46.0	36.4	▲ 19.6		14.8	50.9	30.6	▲ 15.8
従業員		過剰	適正	不足	過－不					
	製造業	3.8	76.9	15.4	▲ 11.5	▲ 1.1				
	卸売業	1.6	87.1	8.1	▲ 6.5	▲ 0.2				
	小売業	1.4	74.3	12.9	▲ 11.4	4.5				
	サービス業	6.1	68.3	23.2	▲ 17.1	2.4				
	合計	3.4	76.0	15.4	▲ 12.0	1.4				
	前回	2.4	77.0	15.8	▲ 13.4					

「今期の状況（除従業員）」は2022年7～9月期状況であり、前年同期の2021年7～9月期との比較。来期の予想は2022年10～12月期予想であり、2021年10～12月期との比較である。「前回」欄は2022年4～6月期調査の数字。従業員は、過去との比較ではなく、業務量に照らした過不足。

■景況グラフ（売上額・業況）



※表示値＝D I（増加・好転－減少・悪化）値

※ I 期=1-3月、II 期=4-6月、III 期=7-9月、IV 期=10-12月

※2022年IV 予想値